

トリカブト



トリカブトに人々の関心が集まっている。「附子を盛った」と疑われる事件のためである。トリカブトはキンポウゲ科、トリカブト亜属の植物を指す。かぶと状に変形したガクと小鳥を連想させる花卉が特徴的であるが、分類の難しい種類が多く、諸説がある。

大昔から矢毒に、あるいは処刑、毒殺に使われてきた。また、その新芽が山菜にされるモミジガサやニンソウに似ており、トリカブトの誤食による中毒が繰返されてきた。過去20

年間に20件、54人が中毒し、3人が死亡、1人がショック性脳塞栓で再起不能になった。さらに、その肥太根が生薬にされ、数種の漢方薬に配合されることからの事故もある。最近も漢方医による烏頭を配合した漢方薬で、死亡事故が起こった。

多くのトリカブトにはアコニチンやメサコ



牧野新日本植物図鑑より



原色中国植物図鑑より

ニチンなどの猛毒性ジテルペンアルカロイドが含まれる。中毒症状はしびれが舌、口周、顔面、頸部、前胸部と広がる。嘔吐、冷汗、皮膚温低下、下肢脱力、起立不能、尿失禁、指末端のチアノーゼ、血圧低下（収縮期～50）、不整脈、心電図の波形激変と逆転、心臓停止と進む。

猛毒性ジテルペンアルカロイドは神経細胞の膜の内側にあるナトリウムチャンネルの第2部位と強く結合し、チャンネルを開いたままにする。神経の活動電位は振り切れたままになる。この毒作用のメカニズムはツツジ科植物の毒、バイケイソウ属植物の毒、カエルの毒（バトラコトキシン）と同じである。

各地のトリカブトの肥太根が生薬にされ、十数ヶ国の局方に収載されている。多くはそのエキスをリニメント剤とし、神経痛やリウマチに外用する。漢方薬文化圏では天雄（新芽の球根）、烏頭（春～秋の球根を乾燥）、附子（球根を熱湯などで処理）を衰えた機能の亢進や起死回生の救命の目的で使用する。附子がよく使われるが、身体の冷えが強いときに烏頭が好まれる。附子に修治する間に毒性は～1/100になるといわれる。

毒性の強い生薬が機能亢進の薬理効果も強いのか。数多くの弱毒性ジテルペンアルカロイドの薬理効果などの解明が待たれている。



学長就任挨拶

学長 久保田 晴 寿

学長就任に際し、一言御挨拶を申し上げます。

大阪薬科大学の源流は、明治37年に大阪の薬業の中心地、道修町に大阪道修薬学校として設立されたのに始まり、以来、多くの有為な人材を輩出した輝かしい伝統を有する大学でございます。私は平成3年1月任期満了により、徳島大学長を退任致しましたが、このたび、このような歴史的に重みのある大学の学長に就任致しましたことは大変光栄に存じますと同時に、その責任の重大さを痛感致しておる次第でございます。ヨーロッパの古い伝統を有する多くの大学は、ギルド即ち同業組合によって自分たちの後継者を養成するために設立されたと言われますので、本学の発祥もこれと同じ素晴らしい伝統を有していると思います。

今日、わが国は豊富な資源を有し、科学技術や産業経済の面で常に先進国であったアメリカやヨーロッパと、技術的にも経済的にも競合し、従来のように範を欧米に求めることは出来なくなり、自ら新しい道を切り開かねばならないようになってまいりました。

大学教育におきましても同じでありまして、戦後の高度経済成長のなかで、高等教育は量的に拡大し、質的にも発展いたしました。そしてここで育った人材が日本経済の発展に大きな役割を果たしたと思います。その高等教育において私学の果たした役割は大きく、世界に例を見ないものであります。

21世紀を目前にして、急激な技術革新による高度情報化、高齢化に伴って、社会情勢の急激な変化は新しい社会の到来の兆しを感じさせ、社会規範の変換を迫っているように思われます。大学もこのような急激な変化に対応し、社会に、また広く国際的にも寄与できるように、質的向上を図り、自ら変革する努力を常に怠らないように心掛ける必要があると思います。

平成4年をピークとして18才人口が急激に減少することが知られています。すなわち、1992年に205万人に達してから減少し、2005年には136万人になると推定されております。このようなことから大学に進学する学生は確実に減少することは明らかでありますので、各大学とも魅力ある個性的な大学を作ろうと競って努力をしているのが現状であると思います。「創業は易く、守成は難し」という言葉がありますが、大学の輝かしい伝統を守り発展させるのは、学校を始めた時より難しいかもしれません。

私は皆様のご協力のもと、豊かな個性を持つ魅力ある大阪薬科大学を目指して、本学発展のために全力を尽したいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

新入生を迎えて

教務部長
教授 田中 千秋



新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。皆様は中学・高校の予備過程から生涯の道として薬学を選ばれたのです。志を立て我が道を行く。いま、多少の迷いは打ち捨て、幾多の試練を乗り越えて

まっしぐらに突き進んで行くという決断と気概が必要です。

薬学は医療の一端を担い、保健衛生に寄与するものです。その使命を遂行するのに必要な知的能力を育成するために、大学は皆様に高度な専門学理と技術を教授致します。皆様には、社会の期待に添えるように最大限の努力と研鑽が要求されます。昨年、諸般の事情からカリキュラム制度を改正しました。新制度の要点は、①当該年次内の再試験を廃止して定期試験に全力を集中させる ②未修得科目については、次年次以降

の定期試験を再受験させる ③講義の充実と講義・実習の整合を図る ④4年次に時間的余裕を作り、特別実習と国試対策の充実を図る、などです。新制度施行の初年度は、不幸にして例年より多数の留年生を出しました。この結果は、学生諸君の新制度に対する認識の不足と対応の甘さによるものと考えます。現在では、同世代の約40%が進学するという大学の大衆化時代です。このためか、大学の「レジャーランド化」とか「保育園化」とかいう評も聞かれる昨今です。本学は薬剤師養成大学として、また学問の府として社会的責任を果さねばなりません。皆様は世情に流されることなく、勉学に励まれ、所期の目的を達成して頂きたいと思えます。

何事も始めが肝心です。薬学といっても多様な道があります。その中から可及的早期に将来の方針を立て、その準備に取り掛かるのが重要です。どうか皆様が健康で充実した学生生活を送られますよう祈念しております。

新入生を迎えて

学生部長
教授 坂田 勝治



新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。薬大生の一員になられたことを心から歓迎し、お祝い申し上げます。

さて、皆さんはこれまで永年にわたって「生徒」と呼ばれてきましたが、4月からは「学生」と呼ばれます。また教育内容も「薬学」という、職業に直結した専門教育になります。この教育における相（phase）の変化を念頭に置いて、今一度“education”の意味を再確認してみるのも無駄ではないでしょう。

“education”とは「(可能性を)外に引き出す」という意味ですが、[e-out + dūcere to lead]が語源です。大学とはその可能性を引き出す場です。そして大学生になるということは、今迄の受身的な「引き出される」立場から、自ら能動的に「引き出す」立場への質的な変化を意味します。だから自らの意志と努力で、自己

の可能性を最大限に引き出してもらいたいものです。とは言え、現代のように複雑な社会構造と多様な価値観の存在する社会においては、ともすれば余りにも多岐にわたる可能性に当惑することもありましょう。しかし、青春の特権である若さとエネルギーをもって、進路を逞しく開拓してください。

言うまでもなく、学生時代とはかけがえのない貴重な時です。必要以上のアルバイトに時間を費やすよりも、クラブ活動なり友人との語り合いの中に、人との触れ合いの大切さを体験し、人間としての幅を拡げてもらいたいものです。世相の反映もあって、一般に大学のレジャーランド化が指摘されて既に久しいですが、学問の府としての大学に誇りを持ち、「薬大生」としての誇りを持って下さい。思えば昔日、私達も若気の至りで「真理とは何か」とか、「真理の探求」などという言葉に陶醉したのですが、そうした純粋な学問的情熱を持てるのも若者の特権ではないでしょうか。

早く薬学の道になじまれ、着実な学ぶ姿勢を体得され、充実した学生生活を送られるよう祈念致します。



平成2年度卒業生の 就職・進路状況について

就職部長 森 逸 男
教授

大学の4年次生ともなると嫌でも長い人生の中で、大半の時間を費やすであろう職場を決めなければならない。少なくとも長い一生をどのように生きていくべきか、自分なりに描いた人生設計を実現させるためには就職しなければならない。ここに昨年、就職試験、進学試験と、貴重な体験を経た平成2年度卒業生（男子108名、女子183名、計291名）の就職、進路状況を掲げ、4年次生以下の学生諸君の進路決定のための参考に供したい。表に見られるように、男子学生は企業（大半は製薬メーカーで営業職）および大学院進学、また女子では企業および病院勤務が大半を占め、昨年の就職状況とほぼ同じ傾向に落ち着きました。（企業への男女合わせての就職者はほぼ65%、病院診療関係

への就職者はほぼ16%、進学者は約9%）。本年度は製薬メーカー以外の化学、食品、化粧品その他企業への進出が目立ち、特に女性の進出が大で、男女雇用機会均等法（昭和61年）の施行5年の経過、並びに大きな好景気に助けられ、女子にも“晴れ間”が見え、“売り手市場”として100%の就職、進路決定者を見ることができました。本人、御家族の努力もさることながら、諸先生、諸先輩、求人側の暖かい御援助の故と本当に喜ばしい限りです。

近年、学生諸君の就職傾向の用語として“花長風月”（花形企業、長期休暇、社風が良い、月給が高い）と評されて居りますが、いたずらに人気企業、ブランド志向に走ることなく、じっくりと自分の将来の進むべ

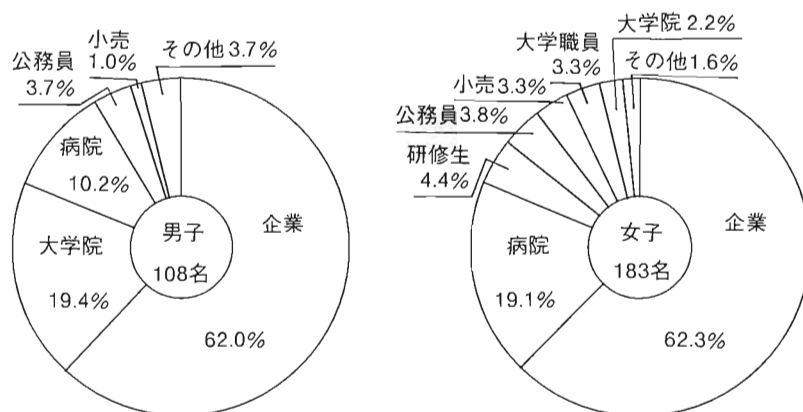
平成3年3月卒業生・修了生進路状況一覧

平成3年3月20日現在

	男 子			女 子			総 計	%	
	薬学科	製薬学科	計	薬学科	製薬学科	計			
薬業	製薬（営業）	19	26	45(1)	9	4	13	58(1)	19.9(5.0)
	（研究・開発・学術・品管）	2	10	12(12)	37	21	58(4)	70(16)	24.1(80.0)
	卸売	1	0	1	1	1	2	3	1.0
化学・食品・化粧品会社	3	6	9	16	14	30	39	13.4	
機器販売・商社	0	0	0	3	3	6	6	2.1	
他の企業	0	0	0	2	3	5	5	1.7	
病院・診療所	4	7	11	21	14	35	46	15.8	
小売薬局	1	0	1	4	2	6	7	2.4	
公務員	2	2	4	4	3	7	11	3.8	
大学職員	0	0	0	4	2	6	6	2.1	
自家業 他	1	0	1	2	1	3	4	1.4	
大学院	5	16	21(3)	2	2	4	25(3)	8.5(15.0)	
病院（研修生）	0	0	0	4	4	8	8	2.8	
未決定者（卒業後就職予定・その他）	1	2	3	0	0	0	3	1.0	
計	39	69	108(16)	109	74	183(4)	291(20)	100.0(100.0)	

() 内の数字は大学院修了生（前・後期課程）を示す

平成 3 年 3 月卒業生（291名）進路状況



き道を考える必要があります。就職に際し、(1)自らの能力、適性を発揮してその職種に生き甲斐を求める (2)ブランドのみを追い花形企業を選ぶ (3)その日の経済的保証のみを追い求めるか、が考えられますが、各人大いに熟慮すべきです。就職の成功か否かの答えは5年あるいは10年、否一生費やしても結果の表れない場合もあり、先ず自分自身を知り、努力する必要があ

ります。いよいよ始まる就職戦線に確固たる信念をもって臨んで欲しいと思います。

なお、折角就職、進学に内定を見ながら、留年の憂き身となり、各進路先、あるいは関係者に多大の迷惑をかけるとともに、自らも挫折感に陥ることのないよう、常日頃、勉学に精励する必要があることを肝に命じて欲しいと思います。



藤田榮一学長退任記念会報告



藤田榮一学長には、平成3年3月末日をもって任期満了退任された。私達教職員一同は、6年間藤田学長に大変お世話になった。学長のご労苦に対して感謝の意を表する事業として平成3年3月22日午後3時より記念講演会、続いて午後6時より記念祝賀会が開催された。

記念講演会は“退任の日を迎えて”と題して第31教室にて行われた。参加者は来賓の高木修造武庫川女子大学薬学部長、平野 弘、太田長世の両名誉教授を含めて約100名で、盛会であった。まず、教職員代表の山口秀夫教授よりご経歴の紹介があり、講演に入った。

道仁中学校の思い出から始まり、延命草有効成分の構造研究、各種合成反応研究など話題は尽きなかった。先生のお人柄、人生観、研究哲学、大学観など感銘深いものであった。大幅に予定時間を超過して、最後に藤本陽子講師の花束贈呈で閉会した。

記念祝賀会は都ホテル大阪にて総数142名の参加を得て、盛大に挙行された。参加者の内訳は、来賓として日下 晃武庫川学院理事長はじめ7名、大学側として学外の理事、評議員13名、および教職員121名であり、教職員の殆んど全員のご出席を頂いた。岡本道

雄理事長の挨拶に始まり、日下 晃武庫川学院理事長、田中 久京都薬科大学学長および教職員代表の山口秀夫教授により祝辞を頂いた。金子太郎神戸女子薬科大学理事長の祝辞は司会が代読した。藤田学長の挨拶に続いて、石黒武雄理事に乾杯の音頭をとって頂いた。

食事、歓談の後で、大村策之助理事、高木修造武庫川大学薬学部長、太田長世名誉教授および吉野幸夫事務局長より祝辞を頂いた。続いて、島岡俊雄父兄会会長および三谷佐孝助教授より記念品が贈呈された。心温まる祝辞を拝聴し、学長のテーブル挨拶が一巡したところで、前川祐子庶務課員（学長秘書）

より感謝をこめた花束が贈呈され、2時間半に及ぶ祝賀会の幕は閉じられた。

終わりに、藤田榮一学長の益々のご健勝とご活躍をお祈りするとともに本会の企画、運営に当たられた実行委員の皆様、諸準備に当たられた事務職員の皆様、ご協力を頂いたご来賓はじめ皆様様に心からお礼申し上げます。

(記：教授 田中千秋)



堀田輝明教授ご退職

堀田輝明教授は、本年3月末日付をもって嘱託教授を退かれた。堀田教授は、昭和44年に、哲学・ドイツ語担当の教員としてご着任になって以来、本年ご退職になるまで、22年の長きにわたって研究と教育に専念された。その間、学園紛争のむずかしい時期に、学生部長を約3か年つとめられ、更に図書館長、学生寮監の要職にもつ



かれた。また法人の理事としては、10年の間ご苦勞になったが、就中、学長としての4年間は、文字通り心血を注いで大学の運営に当たられたことは記憶に新しい。哲学出身の薬大学長は異色であったというだけでなく、その並々ならぬ経営手腕においても、特筆に値するものがあつた。財政の健全化をはかりながらも、大学院博士課程の増設や校地の拡大。学生会館や学生クラブ・ハウスの建設による学生の福利・厚生の実。更にまた、本学創立以来の歴史記録たる「八十年史」を初めて刊行するなど、その果された功績はまことに大なるものがある。

これらを記念する退職記念講演会が、3月12日午後2時半より第31教室に於て開かれ、本学の教職員・学生をはじめ多数の聴講者が詰めかけた。「偶然の生、そして必然の……」という演題で約1時間半にわたり、教授ご自身の青年時代の体験を基に、今ここに在る

「生」の哲学的意義を開示され、聴講者はこれに多大の感銘をうけた。長年講じて来られた哲学者の、本学における最終にふさわしい講演であったと云えよう。

講演会終了後、直ちに場所を都ホテル大阪（上六）に移し、午後6時より退職記念祝賀会が盛大に催された。本学の教職員をはじめ、理事・評議員・名誉教授その他の方々も多数参加された。祝賀会は、和やかな雰囲気の中に終始したが、心温まる祝辞の中にも、堀田教授の人徳をしのばせるに十分なものがあつた。

本年4月より、樟蔭女子短期大学において人間関係学を講じられるが、本学学生はもはや教授の警咳に接すること能わざることとなった。痛恨の極みである。教授の益々のご健康をお祈りしたい。

(記：教授 森下利明)



福井淳造教授ご退職

福井教授は、昭和44年に本学に英語担当教員として御着任以来、22年間にわたり英語教育と研究に当たってこられたが、平成3年3月末日をもって嘱託教授を退かれた。

これを記念する退職記念祝賀会が、水谷泰久教授との合同祝賀会として、3月15日に天王寺の都ホテルで催された。福井教授と水谷教授は旧制中学での同窓であり、祝賀会には教職員多数が参加し、なごやかな雰囲気の中で懇談し、両先生の永年の御貢献に感謝すると共に、今後の変わらぬ御繁栄を祈念した。

(記：教授 坂田勝治)

退職記念合同祝賀会



水谷泰久教授の御退職に際して



大阪薬科大学教授水谷泰久先生は、平成3年3月31日をもって停年退職されることになりました。先生には昭和22年9月京都帝国大学医学部薬学科を御卒業後、11月大阪市立生活科学研究所技手、25年9月大阪市立衛生研究所技手、37年2月衛生化学課研究主任、同時に「クロラニルおよびその関連化合物のポーラログラフィーに関する研究」で京都大学から薬学博士の学位をお受けになりました。その間、附設栄養学院講師を併任され、昭和41年に衛生化学課長に昇任されました。昭和48年9月同研究所を御退職になり、10月に大阪薬科大学教授（公衆衛生学担当）に御就任になりました。御就任後は法人評議員、教務部長、図書館長、広報委員長、研究委員長等の要職に就かれ、職責を全うされました。また本学の排水処理施設の建設、入試事務処理のコンピューターの導入、学報創刊など本学の管理運営に際し、多大の貢献をされました。

学内のみでなく学外にあっては、日本薬学会衛生化学調査委員会委員、日本薬学会近畿支部委員、同支部幹事、日本食品衛生学会評議員などを歴任され、学会の運営に尽力されました。一方先生は地元松原市政にも参画され、松原市市民憲章制定審議会委員、同市基本計画審議会委員、同市都市計画審議会委員等に就任され松原市の発展にも寄与されました。

教育、研究面では先生は公衆衛生学の講義と実習を担当されましたが、その誠意と情熱に対しては今さら多言を要することではありません。また、4年次生の学外実習の責任者として国立衛生試験所大阪支所、大阪府立公衆衛生研究所および大阪市立環境科学研究所での学外実習志望の学生に対し親身になってお世話をいただき、各研究所内での本学の学生の評価を高めていただきました。

研究面では一貫して、ポーラログラフィーの衛生化学領域の応用を試み、その業績について窺い知ることには、後進に対する優れた研究指針となりうるものと信じて疑いません。

水谷先生の御退職は、本学にとりまして誠に大きい損失であります。先生には未だ幸いにも御健勝であらせられますので、今後本学を去られましても変わらぬ御指導、御助言、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。今後ますます御健康で御活躍されるようお祈り申し上げます。

(記：教授 藤田 直)



平成3年度予算の概要について

事務局長 吉野 幸夫

去る3月18日開催の理事会および評議員会において、学校法人大阪薬科大学の平成3年度予算が決定されたので、従来の例により、消費収支予算の総括表によって、その概要を説明することとしたい。

消費収入の部について

- ・学生納付金……授業料・入学金を主な内容とするもので、昨年度の授業料増額に伴い、前年度比1億2160万円の増の15億3810万円を計上。
- ・手数料……入学検定料を主な内容とするもので、本年度の検定料増額に伴い、前年度比1410万円増の9470万円を計上。
- ・補助金……国からの経常費補助を主な内容とするもので、当年度は研究設備補助が4000万円あると想定して、前年度比4000万円増の3億8020万円を計上。
- ・資産運用収入……銀行預金の利息を主な内容とするもので、当年度においては、現有資産の利回りを勘案して、前年度比7000万円増の2億7000万円を計上。
- ・帰属収入合計(A)……事業収入および雑収入は、前年度比、若干の減となるが、帰属収入合計は、前年度比2億4424万円増の23億4483万円になると推算される。
- ・基本金組入額(B)……昭和63年度から、将来の校舎建築のための資金として、毎年度一定額を積み立てることとなったが、本年度よりこれを3億円に引き上げることとし、当年度においては、一般の組入額とあわせて5億1100万円を組入額とすることとなった。
- ・消費収入合計(C)……従って、平成3年度における

消費収入合計は、帰属収入合計(A)から基本金組入額(B)を差し引いて、18億3383万円となる。

消費支出の部について

- ・人件費……教職員の給与費を主な内容とするもので、当年度においては、予想されるベースアップを勘案して、前年度比9257万円増の12億7110万円を計上。
- ・教育研究経費……教育研究用の消耗品費・光熱水料等を主な内容とするもので、当年度においては、おおむね前年度実績に従うものとし、前年度比228万円増の5億3921万円を計上。
- ・管理経費……施設管理費・事務費等を主な内容とするもので、当年度においては、前年度比209万円増の6175万円を計上。

なお、昨年度は教育研究経費に計上していた消費税を、本年度からはこの経費に移管することとし、消費税はすべて管理経費に計上することとした。

- ・消費支出合計(D)……借入金等利息は、前年度比、若干の減であり、予備費は、前年度と同額であるが、消費支出合計は、前年度比9570万円増の19億1561万円と推算される。

翌年度への繰越額について

平成3年度における消費収支は、消費収入合計(C)と消費支出合計(D)との差により、8178万円の消費支出超過(いわゆる赤字)となるが、前年度からの消費収入超過(いわゆる黒字)が3億1614万円であると見込まれるので、差し引きすれば、平成4年度への繰越額は、2億3436万円となるものと算定される。

平成3年度消費収支予算書総括表

[平成3年4月1日から
平成4年3月31日まで]

消費収入の部 (単位円)			
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減 (△)
学 生 納 付 金	1,538,100,000	1,416,500,000	121,600,000
手 数 料	94,700,000	80,600,000	14,100,000
補 助 金	380,200,000	340,200,000	40,000,000
資 産 運 用 収 入	270,000,000	200,000,000	70,000,000
事 業 収 入	12,220,000	12,350,000	△ 130,000
雑 収 入	49,610,000	50,940,000	△ 1,330,000
帰属収入合計	2,344,830,000	2,100,590,000	244,240,000
基本金組入額合計	△ 511,000,000	△ 498,720,000	△ 12,280,000
消費収入の部合計	1,833,830,000	1,601,870,000	231,960,000

消費支出の部 (単位円)			
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減 (△)
人 件 費	1,271,100,000	1,178,530,000	92,570,000
教 育 研 究 経 費	539,210,000	536,930,000	2,280,000
管 理 経 費	61,750,000	59,660,000	2,090,000
借 入 金 等 利 息	13,550,000	14,790,000	△ 1,240,000
(予 備 費)	30,000,000	30,000,000	0
消費支出の部合計	1,915,610,000	1,819,910,000	95,700,000
当年度消費支出超過額	81,780,000	218,040,000	
前年度繰越消費収入超過額	316,140,000	511,500,000	
翌年度繰越消費収入超過額	234,360,000	293,460,000	

19年ぶりに関西へ

教授 掛 見 正 郎
(薬剤学Ⅱ担当)



このたび、故森坂勝昭教授の後任として第二薬剤学教室を担当させていただくことになり、4月1日富山医科薬科大学薬学部より赴任いたしました。本講座は中室嘉祐先生以来の輝かしい伝統のある講座ですので、より大きく発展させることができるよう教室

員とともに一層の努力をする所存ですので、今後ともご指導のほどお願い申し上げます。

さて、私のはじめ「薬剤学」を教わった1970年代は、「薬剤学は何分まだ若い学問で……」という前置きがありましたが、現在では40年の歴史を持つ、薬学の中でも主要な学問の一つにまで発展を遂げました。しかも1980年代の終わりから薬剤学の領域の進展と細分化は急激で、人的にもテーマ的にも確実に薬剤学が「第3世代」に入ったことを実感しています。

私はこの数十年來、「薬物の投与」から「薬効の発現」までの間におこる速度過程を解析することによって、ヒトを含めた薬理効果の消長を、薬物の「投与方法」と「量」のみから予測する方法の開発を行ってきました。薬剤学の主要な目的の1つである最適投与計画の設定や、DDSを含めた最適投与剤形的设计にこれらの方法が利用され、より安全で合理的な薬物療法が確立されるよう、今後とも研究を続けたいと願っています。

ところで、前任地の富山には米国滞在の2年間を挟んで19年余り暮らしました。一般の人にとって「富山」といっても何の印象も無いかあるいは「豪雪と鉛色の空」といった負のイメージを思い浮かべられるかもしれません。しかしそれは冬場の3ヵ月だけで、雄大な立山連峰と日本海を背景に、食べ物、水、空気と

も一級で、それほど暗い土地でも暮らしにくい所でもありません。ただ、私は生まれも育ちも京都ですので、今回やっと大阪方面に「脱出」できたと、つい本音が出てしまいますが、これは他の土地になかなか馴染めない関西人の悪い所だと反省もしております。

赴任早々、講義と実習が始まり慌ただしく毎日が過ぎていきます。まだ教員の先生方すらお名前とお顔が一致しない状態で、色々失礼をしていると存じますが、しばらくはご容赦ください。現在本学の状況についてほとんど把握できて居りません。研究に限らず種々の事についても、色々な方たちのお話を伺いたく存じます。もし時間があれば、当教室に気軽に立ち寄りください。

(注) クラブ顧問「ラグビー部」ご就任

哲学の役割とは

助教授 松 島 哲 久
(哲学・英語Ⅲ担当)



この4月より小生の大先輩であられます堀田先生の後塵を拝して哲学の講義を担当させていただきましたことになりました。新学期を前にしてその責務の重さをひしひしと感じております。皆様いろいろなお教養を請いつつ重責を果して行きたく思っております。ご

指導のほどよろしくお願い申し上げます。

不惑の年も過ぎたせいでしょうか、近年特に感じますのは、学一般における哲学の果たすべき役割はいったい何であるのか、ということであります。それぞれの個別科学がたえずその自己を問い直しつつ、その反省のうえに立ってさらなる発展を期するとき、確かにそこに哲学的思考が機能していると言うことができるの

ですが、しかし、学一般と言うとき、特に近年著しい発展を見た人間科学一般に関して、哲学ははたしてそのトータルなヴィジョンを呈示し得ているのかどうか、そして人間諸科学全体を統合する視点とは何か、など考えさせられてばかりおります。

とはいっても、哲学は人間にとって最も楽しい学のひとつであると思っております。哲学に固有の対象はなく、どこにもあり、またどこにもない、というところに哲学の特有の性格があります。たえず自己を開いて、対話とコミュニケーションの中で、自己の内なる人間性を少しでも高めていくことができますならば、そこにおのずから哲学が成立していると、目下のところそう考えております。それでは根本的な哲学的問いに答えていないではないか、というようになりますが、その点は、生きた思考は時の流れと共に成熟するものだということに期待して、ゆっくりと考えていきたく思っております。そしていつの日か哲学が真により高い人間性に根差したものとして、学一般のうちでその使命を果すことができますことを希望いたしている次第です。

ではどうぞよろしくお願い致します。

(1991.4.8)

(注) クラブ顧問「美術部」ご就任



常に全力投球をめざして

講師 楠瀬 健昭
(英語 I 担当)



あらゆるものが再生する春、やがて90年になろうとする古い歴史を持つ大阪薬科大学の一員となれたことを大変嬉しく思っています。教官と学生という立場の違いはありますが、15年ぶりの大学での生活ということで、新入生諸君と同様に不安と期待で心躍る毎日です。

さて、大学での英語の教育は私にとって新しい課題ですが、学生諸君とともに英語を学びながら、常に英語そのものを身につけることに全力投球していきたいと考えています。そういうなかで、受験英語という枠から抜け出した学生諸君が授業以外でも英語を学びたいという気持ちになれば幸いです。英語は屋外を眺める際の窓ガラスのようなもので、これが曇っていれば外の世界はよく見えません。したがって、常に磨いておく必要があると思います。また、豊かな教養と専門的な研究の上に立ってはじめて、それらを表現する手段としての英語が生かされてくると考えます。

研究室の窓の外には銀杏の大木が見えます。春を迎えたその裸の枝から無数の葉が芽ぶいています。その葉が季節の移り変わりとともに、大木の表情を変えてくれるのを楽しみにしています。自分に与えられた研究する時間と授業する楽しみ、この千載一遇の好機を大切に、微力ですが、一所懸命に頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

(注) クラブ顧問「E.S.S.部」ご就任

第一分析化学教室

教授 千熊正彦



当教室の歴史は、昭和60年9月に私が本学に採用され、旧分析化学教室において森逸男教授（現第二分析化学教室教授）のご指導を受けるようになったときを出発点としますと、早いものでもう5年半になります。現在の教室員

としては、当教室の最初の大学院生である山口敬子修士（昭和62年本学卒）が助手を務めており、大学院生の佐藤卓史修士（博士課程2年）、青木洋之修士（同1年）、宮本佳明君（修士課程2年）、山内健嗣君（同2年）、梶栗隆司君（同1年）、三木敦代さん（同1年）に加えて特別実習生9名、総計17名が在籍しています。旧教職員は、助手として勤められていた西村（旧姓西嶋）三栄子さん1名です。現在は主婦兼母親として元気にご活躍中です。特別実習生の数は平成3年度を含めすと50名に達し、約40名の学士を社会に送り出したこととなります。

研究テーマとしまして、金属イオンの反応性および性質に焦点をあてた錯体化学的検討およびその応用、例えば、白金を含む制ガン剤の開発、生体関連試料中および環境中の微量元素の高感度分析法の開発など従来から行っているものに加えて、ビタミンB₆関連化合物の性質に関する研究や免疫学的手法を用いた生体成分の分析にも取り組んでおります。免疫測定の仕事は本学松村研や池田研で蛋白、酵素の取扱いに習熟された佐藤、梶栗の両君が担当し、経験を生かして抗体の化学修飾などを含め活躍してくれています。いずれの研究も現時点では *in vitro* に留まっていますが、将来は *in vivo* にも発展させようと考えています。

生命科学としての薬学研究が厳しい精度を要求されるにつれて、分析化学の重要性はますます大きくなっています。近年の分析化学の発展は測定機器の向上に負うところが大きいのですが、分析対象化合物や元素の薬理活性や生理活性、さらにそれらの基本となる化学反応性に注目しつつ、分析方法を開発することが薬学の分析化学の使命と考え頑張る所存です。

着任以来、本学の皆様には何かと便宜をはかっていたただき、少しずつではありますが、研究室の体制も整ってまいりました。当面の問題は、研究室の空間的狭さが極限に達していることではありますが、大きい人口密度を活力源として、今後とも研究、教育に意欲を注ぎたいと考えています。研究室が狭いのは、本学の研究室共通の問題であると思いますので、大学全体として何とかよい解決方法があればと願っております。

以上、私どもの研究室の現況をご紹介させていただきましたが、今後とも、従前と変わらぬご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



前列左から宮本(M2)、青木(D1)、山口助手、千熊教授、佐藤(D2)、山内(M2)、梶栗(M1)
後列左から今垣④、山根④、山内④、真本④、中村④、小西④、兵頭④、竹中④、三木(M1)、田淵④

外来(科学)語の母国語化についての一考察

—中国語に感じたこと—

助教授 馬場 きみ江



王年鶴さん



肖永慶さん

私達の研究室(第二生薬学教室)では、これまで二度にわたり中国からの留学生を迎えた。一人は、南京の中山植物園からの王年鶴さん、もう一人は、昨年9月に帰国した、北京の中医研究院の肖永慶さんである。この二人の方と、研究あるいは日常生活を共にしたが、言葉の点では(もちろん日本語である)不自由さを感じなかった。というのも、お二人は日本に来られる前に、少し日本語の勉強をされていたからである。しかし、この二人の留学生と接して共通に感じたことは、中国での外来語の扱い方に、日本とは随分差があるということ、と同時に中国の文献を正しく理解することは、日本人にとって、ましてや、漢字を用いない欧米の国の人にとっては、極めて難しいということである。このことは、薬学、医学に留まらず自然科学分野全般に当てはまるのではないかと思う。現代中国語は、中国解放後、国語の統一化のため北京語を標準とする共通語が主体となった。また、1956年以来、約10年にわたり中国文字革命委員会により整備が行われ、それ以後も改革が進み、私達が現在よく見かける簡略化された字体(簡体字または簡化字と呼ばれる)になった。したがって、現在の文献等は、全てこの字体で書かれており、私達にはなかなか理解しにくいところが多い。しかし、これらも一度覚えてしまえば、どうということはない。問題は、外来語(特に、固有名詞)への対応の仕方である。その第一が人名である。もちろん日本名の場合は、漢字だから、そのまま用いてもらえるが、アルファベットで表された名前では、全て漢字のアテ字に翻訳されてしまい、一体誰のことだかわからない。例えば、格林並(Grignard)、李比希(Liebig)、武慈(Wurz)、李伯曼(Liebermann)、迈耶(Mayer)、帕金(Perkin)、德雷根道尔夫(Dragendorff)などである。

次に化合物の命名についてである。これには二通りの命名法があるように思う。ひとつは外国で命名されたものに、中国語の似た発音から、アテ字を用いてつけられた名前である。これに属するものには、古くから知られている物が多い。例えば阿司匹林(aspirin)、麻啡(morphine)、可待因(Codeine)、可柯因(cocaine)、奎宁(quinine)、咖啡碱(Caffeine)、利血平(Reserpine)などがあり、日本語の発音から考えても、化合物が何であるかは、ほぼ推定できる。最も難解なのは、外国で命名された名前がすでに存在しているにも拘わらず、中国語で独立して付けられてしまった名前である。この場合にも、それぞれ命名に由来があり、その化合物を含有している植物の中国名をもとにしたものが多い。一つの化合物名ならまだしも、同一植物からは当然多数の物が単離されているわけであるから、それぞれに似かよった名が付けられてしまうと、はたしてどの化合物名がどれに当たるのか、ほとんど見当がつかない。その例として洋地黄毒甙(Digitoxin)、异羟基洋地黄毒甙(Digoxin)、麦角异胺(Ergotamine)、麦角新碱(Ergometrine)、蟾酥毒(Bufotoxin)、蟾酥灵(Bufotalin)、大黄素(Emodin)、大黄酸(Rhein)などである。そのために当の中国人の研究者でさえ、確認のための辞書を所持せねばならなくなる。このようにして、命名されているため、我々が中国の文献、辞典などを読む上で大きな障害になってる。外来語を全て漢字に翻訳せねばならない手間は、中国の研究家達にとっても、また科学の発達においても大きな妨げになっているはずである。日本語は元来、漢字を起源とし、長い年月を経て、それらから派生してできたひらがな、カタカナが一体化し、現在の形となっている。この中で、カタカナの存在は極めて特徴的であり、外来語は全てこれで書き表すことができる。(もちろん、正確な発音からは、ほど遠いが)そのため、同じように漢字を用いる両国でありながら、外来語への対処の仕方に大きな差が生じてしまったらしい。日本が明治以来いち早く外国の文化、習慣を取り入れ短期間でそれらに馴染むことができたのも、このカタカナ文化が大きく貢献しているのではないかと思うのである。

学生部だより



20歳以上の学生の国民年金の加入について

国民年金法の一部を改正する法律（平成元年法律第86号）の施行に伴い、学校教育法に規定する大学院、大学、短期大学、高等専門学校、専修学校又は専修学校に準ずるものとして厚生省令で定める教育施設等に在学する生徒または学生で20歳以上の者は、平成3年4月1日から国民年金の第1号被保険者（当然加入）として適用を受けることになりました。

①制度改正の趣旨

20歳前で障害となった者については全員20歳から障害基礎年金が保障されているところですが、学生については、20歳以上で在学中に障害者となった場合、国民年金に任意加入していない限り、障害基礎年金が支給されず無年金となっていました。

また、基礎年金制度は、原則として20歳から60歳までの40年間加入することを前提に満額の老齢基礎年金を支給することとされていますが、学生は任意加入とされていたため、20歳以上の在学期間中に、国民年金に加入していなかった者については、卒業後年金制度に加入しても満額の老齢基礎年金が受けられませんでした。

このため平成元年12月に国民年金法が改正され、平成3年4月1日から、20歳以上の学生も全て国民年金に加入することになりました。

②国民年金への加入の手続き

平成3年4月1日から、学生は国民年金の第1号被保険者の資格を取得した日から14日以内に、住民票を

登録している市区町村長に「国民年金被保険者資格取得届」を届け出ることにより、国民年金の加入手続を行うこととなります。

③保険料の納付方法

国民年金の保険料は、平成3年度においては月額9,000円となっており、市区町村長が被保険者本人あてに発行する納付書などによって納めることとなります。

④保険料の免除

保険料の納付が困難な学生は保険料免除制度を利用できます。

⑤種別変更等の手続き

大学を卒業後会社等に就職し、厚生年金保険等の被用者年金制度に加入したときは、市区町村長への変更、脱退の届出が必要となります。

⑥その他

20歳以上の学生であった間に、国民年金被保険者資格取得届をしていなかった者及び当該届はしているが、保険料免除の承認を受けることなく保険料を納めなかった期間がある者については、卒業後会社等に就職し、厚生年金保険の被用者年金制度に加入しても、加入後しばらくの間に生じた障害（死亡）には、年金が支給されない場合があります。

概略は以上の通りです。

尚、詳細は住所地の市区町村又は社会保険事務所の国民年金担当窓口へお問い合わせ下さい。



低 血 圧

健康診断の際には必ず血圧測定が実施されているが、高血圧への関心がほとんどで、低血圧はあまり気にされていないようである。しかし女性に多いめまい、耳鳴り、肩こり、動悸などの訴えは、低血圧の症状と深く関係している。

〔低血圧の基準〕

低血圧の場合、基準の設定が難しく確定的なものがないが、一般的には最高血圧100 mmHg 以下、最低血圧50～60 mmHg 以下を低血圧としていることが多い。

最高血圧100以下の人も多く、若い女性においては特にその傾向が強い。90以下の人では低血圧による自覚症状が見られる。

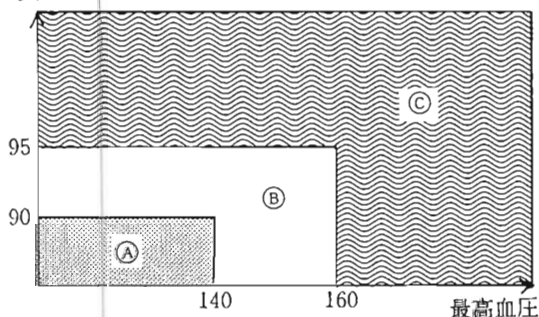
<参考>

高血圧の WHO (世界保健機関) 基準分類

(単位 mmHg)

① 正常血圧	140以下	～	90以下
② 境界域高血圧	140	～	160
	90	～	95
③ 高血圧	160以上		95以上

最低血圧



〔低血圧の種類〕

① 本態性低血圧

体に異常がなく、血圧だけが正常よりも低くなっている。医師から低血圧と言われた時は、まず本態性低血圧と考えてよい。

原因がはっきりわかっていないので本態性と呼ばれているが、体質によるものだと考えられている。

やせ型で無力型体質の人に多く、両親のいずれかに同症状のある人が多い。

血圧が低いだけで自覚症状もないので血圧を高くする必要はない。

② 症候性低血圧

体の異常や病気の症状として低血圧になっているものをいう。

③ 急性一過性低血圧

心筋梗塞、発作性頻脈、うっ血性心不全または急性出血、やけど、激しい下痢、嘔吐などの時におこる。

④ 慢性持続性低血圧

結核、癌などの末期、肝硬変、重症性貧血の病気によるもの、または降圧剤の使用時にも時々おこることがある。

⑤ 起立性低血圧

普通の血圧、あるいは高血圧の人が起き上がると急に血圧が低下するもの。

〔低血圧の主な症状〕

自覚症状としては疲れやすい、体がだるい、仕事が長続きしない、物事に飽きっぽい、頭が痛い、めまい、耳鳴り、肩こり、動悸、息切れ、食欲がない、胃がもたれる、便秘がち、月経不順、冷え症などがある。やせている人に多いため胃下垂や神経質の人に多いことも特徴である。このような症状は貧血の症状とよく似ているので混同されやすい。

〔低血圧の対策〕

① 過労、寝不足などを避け、規則正しい生活習慣のリズムを守ることが大切である。

② 本態性低血圧は健康と考えてよいわけで、心配せずバランスのとれた食生活を心がけること。(朝食をしっかり食べる習慣をつける)

③ 原因のある症候性低血圧は、病気の原因をとり除く治療を受けること。

④ めまい、立ちくらみの症状の強い人は急に立ち上がらないように注意する。

⑤ やせている人が多いので、肉類など蛋白質や脂肪の豊富な食品をとることが大切である。

また、胃下垂の人も多いので消化のよい食物をよくかんで食べることを心がけると良い。

⑥ 食欲のない時は食塩の多いおかずを食べると食欲が増し、血圧を上げる効果もある。

食前にブドウ酒を飲むと食欲が増すこともよく知られている。

⑦ 血圧の低い人は長生きするといわれているのであまり気にせず生活に余裕をもって毎日を過ごすようにしましょう。

◎ 「保健室だより」は、皆さんの健康づくりのパートナーとして、身近な疾病をシリーズ化して掲載していますが、今後解説してほしいテーマがあればお知らせ下さい。

(既掲載テーマは、腰痛、肩こり、ストレス、頭痛、肥満、低血圧となっています)

教務部だより



日本赤十字社から感謝状

—— 献血推進に協力 ——

本学は、昭和48年以来、毎年6月と10月の年2回、学生と教職員による団体献血を実施してきました。

このたび日本赤十字社大阪府支部、大阪府赤十字血液センターより、献血協力功勞団体として感謝状（銀色有功章）をいただきました。

最近の医療現場では、血液の需要は年々増加しているにもかかわらず、供給は慢性的不足状態となっています。

献血により「いいことをした」という心の充足感と同時に、貧血、肝・腎機能、コレステロール値などの生化学検査の結果も得られ、自分自身の健康チェックができます。

今後も学友会、学生、教職員の皆さんの一層のご協力をお願いします。

献血者数の推移（最近5ヶ年）

年 度	昭和61	昭和62	昭和63	平成元	平成 2
200ml献血	164	153	110	178	162
400ml献血	9	9	14	18	37
計	173	162	124	196	199

新入生の皆さん、ご入学お目出とうございます。受験勉強は大変だったと思いますが、しかしこの貴重な経験はこれから先少々困難な事があっても乗り越えられる自信となったと思います。入試も残り2ヶ月が経過しましたから気持ちを引き締めて、今度は大学での勉強に頑張ってくださいと思います。ガイダンスでも説明がありましたが、大切な事項を改めて述べてみます。

1. 連絡事項、時間割変更等すべて掲示で行いますので、教務課前の掲示板は毎日必ず見て下さい。期限付きのものは、期限が過ぎてからでは受け付けられませんのでくれぐれも注意して下さい。
2. 各年次に出てくる科目は、学則の科目配当表のとおりで、前期開講科目の授業は7月22日で終了し、9月には試験があり、この1回の試験でその科目の単位修得か否かが決定します。

後期開講科目は10月1日から1月末まで授業があり、試験は2月の1回のみで前期と同様です。通年科目というのは、4月から1月末まで授業があり、試験は9月と2月の2回行われ、合否はその2回の平均点で判定されます。

3. 履修届は選択科目および選択必修科目について、4月または10月に提出します。必修科目は提出する必要はありません。

受験届は選択科目について提出します。これを提出していないと受験できないので、提出期日については掲示に注意して下さい。選択必修科目、必修科目については提出する必要はありません。

4. 試験の成績は100点満点で表示され、60点以上で合格、59点以下で不合格となります。各学年共、必修科目と選択必修科目で単位が取れなかった科目が5科目以下のときは進級でき、6科目以上で留年となります。4年次へ進級するときは、一般教育科目、外国語科目、保健体育科目はすべて単位を修得して、専門教育科目の必修科目のうち単位未修得が5科目以下で進級することができます。

この他まだいろいろとありますので、学則、学科履修規程はよく読んで下さい。わからないことがあればいつでも教務課へ来て下さい。

図書館だより

平成3年度よりの新規事業として既に予定されているもの、また継続事業として行われるものをご紹介します。

①移動書架の設置

『蔵書数がほぼ現有スペースの限度近くに達したので、移動書架の新設（現在の約190%のスペース）でこの問題を解決したい』との図書館長の提案が、3月の施設委員会で受け入れられた。4月末にその見積書を学長に提出した。

②情報事務の迅速化

図書館にFax(0723-33-1465)が設置されたので、他図書館との業務連絡が迅速化される。現在、Fax使用内規を作成中。

③開館時間の延長

引き続き継続する。(文献複写、図書閲覧、貸出、返却業務のみ行う)平日5時-6時、土曜日1時-4時30分(ともに試験、講義のある日のみ行う)

④新聞閲覧コーナーの整備

図書館入口のカウンター内に、新聞閲覧台、新聞差し(12種用)、椅子、テーブルを父兄会のご援助により購入予定である。今後は座った状態でリラックスして新聞の閲覧ができることになろう。なお従来、購読紙は朝日新聞、毎日新聞、デイリー毎日ニュース、科学新聞だけであったが、今回読売新聞、日経新聞をそのリストに加えたので大いに活用してもらいたい。

⑤2階閲覧室にカウンター設置

図書館の閲覧サービスを強化するため2階閲覧室にカウンターを設置し、図書館員が交代で常駐する予定である。

⑥新規購入雑誌など

☆1991年から新しく購入する雑誌

1. Accounts of Chemical Research
2. Cheminform
3. Free Radical Biology and Medicine
4. Gene
5. Immunology Today

6. Journal of Applied Bacteriology
7. Journal of Neurochemistry
8. Synlett
9. 活性酸素・フリーラジカル
10. 神経化学
11. 薬事新報
12. Lipid

☆セクションの追加があった雑誌とその名称

1. Anal. Chim. Acta : Vibrational spectroscopy
2. B. B. A. : Molecular basis of disease

☆誌名変更があった雑誌

1. サイエンス→日経サイエンス(1990.10から)

☆1990年限りで購入を中止した雑誌

1. Journal of Theoretical Biology
2. Nuclear Physics B

⑦図書委員の一部交代

学生部長として多忙の中、図書委員を兼任されていた坂田勝治教授の後任として、濱中久美子助教授が図書委員に就任。

⑧図書館の人事異動

4月の図書館関係の人事異動は次のとおり

- 昇任：図書課長 高橋 正好(前学生課長補佐)
転任：図書課員 高橋 嘉明(前学生課員)
転任：学生課員 古本 浩三(前図書課員)



卒業式

平成3年3月20日(木)、第38回学部卒業式並びに第15回大学院修了式(学部291名、大学院修了生20名)が来賓、父兄参列のもとに挙行された。



学位授与

薬学博士(平成3年3月20日)

博第3号 薬品物理化学 上田仁司

キャップ結合蛋白質の mRNA キャップ構造認識機構の研究

薬学博士(平成3年3月6日)

論博第6号 小松慶子

TGF- β を介した骨髄性白血病細胞と線維芽細胞の増殖に関する相互作用

薬学修士(平成3年3月20日)

修第116号 薬化学 伊藤義典

海藻着生菌 *Penicillium commune* の産生する細胞毒性物質に関する研究

修第117号 薬化学 松下智哉

海水魚由来の *Aspergillus fumigatus* の産生する細胞毒性物質に関する研究

修第118号 生薬学 中田功二

Angelica keiskei K_{OTDZUMI} アシタバのカルコン成分に関する研究

修第119号 薬品製造学 大寄浩孝

[3, 3] シグマトロピー転位を経る環拡大反応を用いたオレフィンの高立体選択的合成に関する研究

修第120号 衛生化学 高井真司

ウサギ血小板におけるアラキドン酸代謝に対する脂質過酸化の影響に関する研究

修第121号 生化学 小山純一

インドクサリヘビ (*Vipera russelli russelli*) 毒由来神経成長因子の精製と一次構造の決定

修第122号 生化学 西村裕子

ミセル状レシチンを基質とするヘビ毒由来ホスホリハーゼ A₂ の酵素反応速度論

修第123号 微生物学 豊田憲子

インフルエンザウィルスゲノムの cDNA のクローニング

修第124号 微生物学 吉田征生

海洋細菌の産生するキチナーゼの精製およびその諸性質

修第125号 薬剤学 治田達夫

薬物の皮膚透過に及ぼす各種脂肪酸の影響に関する研究

修第126号 薬剤学 岩倉裕士

生理活性ペプチドの経皮吸収に及ぼすイオントフォレシスおよび蛋白分解酵素阻害剤の影響に関する研究

修第127号 薬理学 久木一弘

ラット摘出腸間膜動脈灌流標本におけるビッグエンドセリン-1 からエンドセリン-1 への変換

修第128号 薬理学 池川のり子

培養血管内皮細胞におけるビッグエンドセリン-1 からエンドセリン-1 への変換機構に関する研究

修第129号 薬品分析学 中村昌樹

芳香族アミン誘導体の分析化学への利用研究

- 修第130号 薬品分析学 青木洋之
三官能性試薬を用いるイオン交換樹脂の機能変換
：環境水中の微量金属イオンの分離濃縮と原子吸
光分析への応用
- 修第131号 薬品物理化学 片川好史
エンゲファリン二量体の合成とオピオイド活性
—構造活性相関—
- 修第132号 薬品物理化学 伊与博美
グアニン塩基及び7-メチルグアニン塩基とトリ
プトファン含有ペプチドとの相互作用研究
- 修第133号 放射薬品学 平田雅彦
脳内モノアミンオキシダーゼ活性診断放射性医薬
品開発のための基礎的研究
- 修第134号 放射薬品学 宮村知宇
環境中の³Hの測定技術の開発と応用

人 事 異 動

- 学長発令 (平成3年4月1日)
久保田晴寿
- 教務部長発令 (平成3年4月1日)
田中 千秋 (教授)
- 研究委員長発令 (平成3年4月1日)
千熊 正彦 (教授)
- 教授発令 (平成3年4月1日)
掛見 正郎 (第二薬剤学教室・新採用)
- 助教授発令 (平成3年4月1日)
春沢 信哉 (第一薬品製造学教室)
松島 哲久 (人文科目・新採用)
- 講師発令 (平成3年4月1日)
井上 晴嗣 (第一生化学教室)
楠瀬 健昭 (外国語科目・新採用)
- 助手発令 (平成3年4月1日)
豊田美奈子 (第二分析化学教室)
加福やよい (第二物理化学教室)
- 副手発令 (平成3年4月1日)
西田 裕子 (第二衛生化学教室・新採用)
山沖 留美 (第二放射薬品学教室
・新採用)
- 課長発令 (平成3年4月1日)
高橋 正好 (図書課兼資料室長)
井頭 八郎 (学生課)
- 係長発令 (平成3年4月1日)
福永 治久 (施設課)
- 嘱託発令 (平成3年4月1日)
山口 秀夫 (教授)
酒井 清 (教授)
曾根 節子 (助教授)
吉野 幸夫 (事務局長)
藤井 司郎 (経理課長)
- 配置換発令 (平成3年4月1日)
古本 浩三 (学生課・図書課より)
高橋 嘉明 (図書課・学生課より)
- 事務職員発令 (平成3年4月1日)
堤 富美夫 (技能職員より)

平成3年度 前期行事予定

- 4月2日(火) } 第76回薬剤師国家試験
- 4月3日(水)
- 4月10日(水) 入学式 (学部, 大学院)
- 4月11日(木) 新入生健康診断, 新入生ガイダンス
- 4月12日(金) 新入生ガイダンス, アドバイザー面談
- 4月13日(土) 前期授業開始
就職ガイダンス (4年次生)
- 4月15日(月) レントゲン検診 (新入生以外の学生の女子,
教職員の女子)
- 4月16日(火) レントゲン検診 (同上の男子)
- 4月19日(金) 選択科目履修届提出締切 (教務課)
- 4月27日(土) 新入生奨学金ガイダンス
- 5月9日(木) 創立記念日 (休業)
- 5月11日(土) 新入生歓迎会 (五月祭)
- 5月16日(木) 健康診断 (新入生以外の学生の女子)
- 5月17日(金) 健康診断 (同上の男子)
- 7月22日(月) 前期授業終了
- 7月23日(火) } 夏季休業
- 9月12日(木)
- 9月13日(金) } 前期定期試験 (1~4年次生)
- 9月30日(月)



(平成3年5月1日)

増家 博 (施設課・新採用)

退任 (平成3年3月31日)

栗原拓史教授・教務部長

(任期満了につき)

稲森善彦教授・研究委員長

(任期満了につき)

退職 (平成3年3月31日)

藤田 榮一学長 (任期満了につき)

曾根 節子助教授 (化学第二教室)

森本 純子助手 (第二放射薬品学教室)

畠山 容子助手 (第二薬剤学教室)

後藤亜也子助手 (第二衛生化学教室)

岡田 章子助手 (第二衛生化学教室)

藤井 司郎 (経理課長)

解嘱 (平成3年3月31日)

堀田 輝明教授 (人文科目)

福井 淳造教授 (外国語科目)

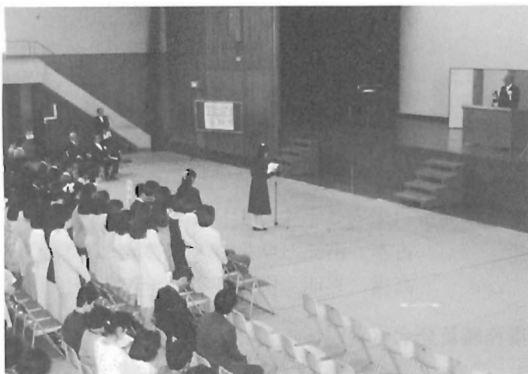
水谷 泰久教授 (第二衛生化学教室)

杉田 勝美 (資料室長)



入 学 式

平成3年4月10日(木)、平成3年度学部並びに大学院入学式(学部入学生256名、大学院博士前期課程24名)が来賓、父兄参列のもとに挙行された。



平成3年度
各部・委員会・委員一覧

◎は各部署の長
(平成3年5月1日現在)

教務部	◎田中 千秋(教授)
三野 芳紀(助教授)	藤田 芳一(助教授)
学生部	◎坂田 勝治(教授)*
望月伸三郎(教授)	千熊 正彦(教授)
松村 瑛子(助教授)	辻坊 裕(講師)
就職部	◎森 逸男(教授)
赤木 昌夫(助教授)	松村 瑛子(助教授)
図書館	◎保坂 康弘(教授)
石田 寿昌(教授)	濱中久美子(助教授)
学生寮	◎望月伸三郎(教授)
坂田 勝治(教授)	馬場きみ江(助教授)
藤本 陽子(講師)	
薬用植物園	◎小澤 貢(教授)
草野源次郎(教授)	馬場きみ江(助教授)
三野 芳紀(助教授)	
実験動物センター	◎玄番 宗一(教授)
酒井 清(教授)	森本 史郎(教授)
藤田 直(教授)	池田 潔(教授)
保坂 康弘(教授)	稲森 善彦(教授)
千熊 正彦(教授)	掛見 正郎(教授)
安田 正秀(講師)	
総務委員会	◎久保田晴寿(学長)
森本 史郎(教授)	田中 千秋(教授)
森 逸男(教授)	沼田 敦(教授)
小澤 貢(教授)	保坂 康弘(教授)
坂田 勝治(教授)	吉野 幸夫(事務局長)
施設委員会	◎久保田晴寿(学長)
森本 史郎(教授)	田中 千秋(教授)
森 逸男(教授)	沼田 敦(教授)
小澤 貢(教授)	栗原 拓史(教授)
池田 潔(教授)	石田 寿昌(教授)
曾根 節子(助教授)	吉野 幸夫(事務局長)
研究委員会	◎千熊 正彦(教授)
馬場きみ江(助教授)	春沢 信哉(助教授)
広報委員会	◎保坂 康弘(教授)
松村 瑛子(助教授)	三野 芳紀(助教授)
森本 武司(庶務課長)	高橋 正好 [図書課長 資料室長]

大学史資料委員会	◎曾根 節子(助教授)
森下 利明(教授)	加藤 義春(助教授)
馬場きみ江(助教授)	吉野 幸夫(事務局長)
森本 武司(庶務課長)	高橋 正好 [図書課長 資料室長]
公開教育講座委員会	◎久保田晴寿(学長)
稲森 善彦(教授)	石田 寿昌(教授)
千熊 正彦(教授)	
R I施設運営委員会	◎田中 千秋(教授)
酒井 清(教授)	井上 正敏(教授)
森本 史郎(教授)	沼田 敦(教授)
保坂 康弘(教授)	玄番 宗一(教授)
稲森 善彦(教授)	千熊 正彦(教授)
草野源次郎(教授)	木村捷二郎(助教授)
森本 一洋(助教授)	
排水処理委員会	◎小澤 貢(教授)
沼田 敦(教授)	栗原 拓史(教授)
赤木 昌夫(助教授)	
動物実験委員会	◎玄番 宗一(教授)
酒井 清(教授)	森本 史郎(教授)
藤田 直(教授)	池田 潔(教授)
保坂 康弘(教授)	稲森 善彦(教授)
千熊 正彦(教授)	掛見 正郎(教授)
松村 瑛子(助教授)	安田 正秀(講師)
森本 武司(庶務課長)	
組換えDNA実験安全委員会	◎保坂 康弘(教授)
森本 史郎(教授)	田中 千秋(教授)
森下 利明(教授)	池田 潔(教授)
稲森 善彦(教授)	石田 寿昌(教授)
黒田 和道(講師)	森本 武司(庶務課長)
教育検討委員会	◎森本 史郎(教授)
田中 千秋(教授)	沼田 敦(教授)
小澤 貢(教授)	藤田 直(教授)
栗原 拓史(教授)	池田 潔(教授)
石田 寿昌(教授)	坂田 勝治(教授)
医療薬学実習担当委員会	◎酒井 清(教授)
千熊 正彦(教授)	掛見 正郎(教授)
中元 安雄(助教授)	木村捷二郎(助教授)
森本 一洋(助教授)	西野 隆雄(講師)
バイオハザード予防委員会	◎稲森 善彦(教授)
田中 千秋(教授)	池田 潔(教授)
保坂 康弘(教授)	松村 瑛子(助教授)
安田 正秀(講師)	

*平成3年6月16日から稲森善彦教授が次期学生部長に就任予定

薬剤師国家試験の結果について

本年度春に施行された薬剤師国家試験の成績は次の通りであった。

◎薬剤師国家試験

第76回（平成3.4.2～4.3施行，4.26発表）

受験者	合格者	合格率	全国平均
317名	268名	84.54%	79.67%
(289名)	(253名)	(87.54%)	(84.86%)

※()内は、新卒者(平成3年3月卒業)の数値を示す。
参考として過去5年間の薬剤師国家試験の成績を記載する。

薬剤師国家試験合格状況（過去5年）

年（回）	総合(%)	新卒(%)	その他(%)
昭和62 (72)	91.51	96.50	46.88
	91.17	94.71	57.70
昭和63 (73)	87.94	91.81	52.00
	86.65	89.72	51.19
平成元 (74)	89.62	92.75	59.26
	85.40	89.72	55.60
平成2 (75)	86.35	89.59	60.71
	86.65	90.62	59.32
平成3 (76)	84.54	87.54	53.57
	81.35	86.35	45.62

※上段は本学，下段は私立薬系大の平均の数値を示す。



奨学生状況（平成3年3月31日現在）

1. 日本育英会

貸与状況

(人)

	1年	2年	3年	4年	学部計	修士	博士	総計
第1種	19	21	26	30	96	11	2	109
第2種	23	27	27	24	101	—	—	101
計	42	48	53	54	197	11	2	210

貸与額

(学部)

(円/月)

入学年度		昭和62～63年度	平成元～2年度	平成3年度以降
第1種	自宅通学	35,000	38,000	41,000
第2種	自宅外通学	45,000	48,000	51,000

(大学院)

(円/月)

第1種	自宅・自宅外通学	修士課程 博士課程	75,000 86,000
-----	----------	--------------	------------------

貸与種別

第1種	無利息貸与	卒業後長期 分割返還 (10～20年)
第2種	利息付貸与 (年利率3%)	

2. その他の育英会・奨学会

	1年	2年	3年	4年	院生	計	月額 (円)	給・貸
本学父兄会奨学会	4	2	3	3	3	15	20,000	給
小野奨学会		1				1	20,000	給
佐藤奨学会		1				1	17,000	給
大阪府育英会	2	6	7	9		24	19,000 22,000	貸
東大阪市育英会				1		1	17,000	貸
岡山県育英会	1	1				2	35,000	貸
山口県奨学会		1				1	27,000 34,000	貸
計	7	12	10	13	3	45		

(注1)「給」は給付で返還不要

(注2)「貸」は貸与で卒業後長期分割返還

教員研究業績一覽 (1990年)

(1990. 1. 1~12. 31)

1. 紀要, 総説, 解説, 著書等

著者	題目	書名または掲載誌(出版社)
土井光暢, 井上正敏	エンケファリンの立体構造に基づく μ/δ -オピオイドレセプターの基質特異性	生物物理 30, 120 (1990)
藤田芳一	高純度マロンジアルデヒドナトリウムの簡易な調製法	ぶんせき 1990, 828
千熊正彦, 他	臨床化学分析における診断薬	医薬品の開発 10 診断薬 (広川書店), 15(1990)
大桃善朗, 他	CNS D ₂ Dopamine Receptor Imaging Agents.	Drugs of the Future 15, 711(1990)
木村捷二郎, 泰松明子	放射性有機廃液の焼却処理に関する考察—焼却処理のための前処理の効果—	保健物理 25, 227(1990)
木村捷二郎, 他	—表層土壌における Pb-210の深度分布について—	「続 大気中のラドン族と環境放射能」 原子力学会, 東京 255(1990)
木村捷二郎, 辻本泰子, 他	Distribution of natural radionuclide in the soil in all area of Osaka pref. and in Wakasa area of Fukui Pref.	Annual Report of Osaka Prefectural Radiation Research Institute. 30, 21(1990)
藤田榮一, 他	Recent Progress in Asymmetric Synthesis of Pyrrolizidines	Heterocycles 30, 1231(1990)
藤田榮一 (分担執筆)	官能基の保護と観保護	有機合成実験法 ハンドブック (有機合成化学協会編) 383(1990)
池田 潔, 他	アームストロングの生化学 第3版	広川書店 (1990)
藤田 直, 藤本陽子	アラキドン酸代謝と生理活性物質	日本病院薬剤師会雑誌 26, 31 (1990)
松村靖夫, 池川のり子, 高岡昌徳, 森本史郎	内皮細胞抽出液によるビッグエンドセリン-1 から エンドセリン-1 への変換について	エンドセリン—最新情報—42 中外医学社 (1990)
保坂康弘, 天野拓之	インフルエンザウイルス, 電子顕微鏡アトラス	細胞 22, 1(1990)
黒田和道	バキュロウイルスによる組織え蛋白質の生産	蛋白質, 核酸, 酵素, 35, 957 (1990)
保坂康弘, 他	医・薬科ウイルス学	医薬ジャーナル社(1990)
保坂康弘, 天野拓之, 他 (分担執筆)	C型慢性肝炎肝組織の微細構造	「C型肝炎—インターフェロン療法—」 大岡昭二, 鎌田武信 監修 48(1990)
安田正秀	学内施設の整備 実験動物センター内感染動物実験室	大阪薬科大学報 23, 4(1990)
坂田勝治	『俳句』の翻訳——その問題点をめぐって	ばいいていあ 14, 59(1990)

2. 研究学術論文

著 者	題 目	掲 載 誌
尹 康子, 土井光暢, 石田寿昌, 他	Molecular conformation of achatin-1, an endogenous neuropeptide containing D-amino acid residue	FEBS Lett. 276, 95 (1990)
石田寿昌, 浜田美穂子, 井上正敏	Structure of 5-hydroxyindole-3-acetic acid	Acta Crystallogr. C46, 2426 (1990)
石田寿昌, 尹 康子, 井上正敏, 他	The solid-state and solution conformations of (+)-chelidonine	Helv. Chim. Acts. 73, 2171 (1990)
石田寿昌, 他	Orally potent human renin inhibitors derived from angiotensinogen transition state : Design, synthesis, and mode of interaction	J. Med. Chem. 33, 2707 (1990)
石田寿昌, 尹 康子, 井上正敏	Structure of ranitidine hydrochloride	Acta Crystallogr. C46, 1893 (1990)
石田寿昌, 他	A method to detect common features necessary for biological activity : Application of ANALOGS For aldose reductase inhibitors	Tetrahedron Comput. Method. 3, 3 (1990)
石田寿昌, 尹 康子, 井上正敏, 栗原拓史, 森本一洋, 森坂勝昭, 他	Molecular conformations of aminophenylimidazoles exhibiting antiulcer activities	Chem. Pharm. Bull. 38, 1803 (1990)
土井光暢, 石田寿昌, 井上正敏	Conformational characteristics of opioid κ -receptor agonist : Crystal structure of (5 <i>S</i> , 7 <i>S</i> , 8 <i>S</i>)-(–)- <i>N</i> -methyl- <i>N</i> -[7-(1-pyrrolidinyl)-1-oxaspiro-[4.5]dec-8-yl] benzencetamide (U69, 593), and conformational comparison with some κ -agonists	Chem. Pharm. Bull. 38, 1815 (1990)
石田寿昌, 尹 康子, 井上正敏, 田中千秋, 他	Conformation of (<i>Z</i>)-3-carboxymethyl-[(2 <i>R</i>)-2-methyl-3-phenylpropenylidene]-rhodanine (Epalrestal), a potent aldose reductase inhibitor : X-ray crystallographic, energy calculational, and nuclear magnetic resonance studies	J. Chem. Soc. Perkin Trans. 2, 1085 (1990)
山本大助, 石田寿昌, 井上正敏	A comparison between the binding modes of a substrate and inhibitor to papain as observed in complex crystal structures	Biochem. Biophys. Res. Commun. 171, 711 (1990)
山本大助, 大石宏文, 石田寿昌, 井上正敏, 他	Molecular dynamics simulation of papain-E-64-(<i>N</i> -[<i>N</i> -(<i>L</i> -3- <i>trans</i> -carboxy-oxirane-2-carbonyl)- <i>L</i> -leucyl] agmatine) complex	Chem. Pharm. Bull. 38, 2339 (1990)
石田寿昌, 他	Synthesis of corynanthe alkaloids corynantheine, hirsuteine, and the isositsirikine	Heterocycles. 30, 1031 (1990)
石田寿昌, 浜田美穂子, 井上正敏, 他	Crystal and molecular structure of 6-hydroxy melatonin, a final metabolite of tryptophan	Chem. Pharm. Bull. 38, 851 (1990)
土井光暢, 石田寿昌, 他	Absolute stereostructure of swinholide A, a potent cytotoxic macrolide from the Okinawan marine sponge <i>Theonella swinhoei</i> .	J. Am. Chem. Soc. 112, 3710 (1990)
屋良 肇, 片川好史, 土井光暢, 石田寿昌, 井上正敏, 安田正秀, 他	An attempt to structurally convert μ -selective morphine toward δ -receptor binding : dimerization based on enkephalin conformation	Eur. J. Pharmacol. Mol. Pharmacol. 188, 359 (1990)

著者	題目	掲載誌
石田寿昌, 伊与博美, 上田仁司, 土井光暢, 井上正敏	Selective binding of guanine base by a tryptophan-containing dipeptide	J. Chem. Soc. Chem. Commun. 217 (1990)
尹 康子, 藤森由美子, 大石宏文, 石田寿昌, 井上正敏, 他	Structure of tetrahydro-N-methyl-2-(2-pyridinyl)-2-thiophenecarbothioamide (Picartamide)	Acta Crystallogr. C46, 301 (1990)
石田寿昌, 上田仁司, 瀬川かよ, 土井光暢, 井上正敏, 他	Prominent stacking interaction with aromatic amino acid by N-quarternization of nucleic acid base : X-ray crystallographic characteristics and biological implications	Arch. Biochem. Biophys. 278, 217 (1990)
山本大助, 松本慶太, 大石宏文, 石田寿昌, 井上正敏, 他	The importance of Val 157 hydrophobic interaction for papain inhibitory activity of an epoxysuccinyl amino acid derivative	FEBS Lett. 263, 131 (1990)
土井光暢, 石田寿昌, 井上正敏	Structure of K-agonist, U-50488	Acta Crystallogr. C46, 676 (1990)
山本大助, 松本慶太, 大石宏文, 石田寿昌, 井上正敏, 他	Mode of binding of E-64·c, a potent thiol protease inhibitor, to papain, as observed by X-ray crystal analysis of the complex	Acta Crystallogr. A46, 121 (1990)
石田寿昌	Specific interaction of nucleic acid base by amino acid and peptide : Importance of multiple hydrogen bonds and stacking interaction	Acta Crystallogr. C46, 152 (1990)
森 逸男, 藤田芳一, 加藤圭司, 豊田美奈子, 赤木昌夫	The Application of Diarylamine Compounds in Analytical Chemistry. I. Fluorescence Reactions among 4-(4-Methyl-2 quinolyl) aminosalicylic Acid, Cobalt (II) and Hydrogen Peroxide, and the Fluorimetry of Cobalt (II) by Using Its Fluorescence Reaction	Bull. Chem. Soc. Jpn. 63, 359(1990)
藤田芳一, 森 逸男, 豊田美奈子, 加藤圭司, 中村昌樹, 中西豊文	Simple and Sensitive Spectrophotometric Determination of Albumin with <i>o</i> -Sulfohenylfluorone-Uranium (VI) Complex, and Binding Study	Chem. Pharm. Bull. 38, 956 (1990)
藤田芳一, 森 逸男, 豊田美奈子	Effectiveness of Chitosan on Spectrophotometric Determination of Zinc (II) with <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephthalcin	Anal. Sci. 6, 607 (1990)
藤田芳一, 森 逸男, 豊田美奈子	Spectrophotometric Determination of Chlorhexidine Based on a Hydrophobic Interaction with <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephthalcin-Manganese(II) Complex	Anal. Sci. 6, 807 (1990)
森 逸男, 藤田芳一, 豊田美奈子, 加藤圭司, 赤木昌夫	Fluorescence Reaction among N-(Phenyl)-N-(4-Methylquinoliny) amine Derivatives, Hydrogen Peroxide and Cobalt (II), and Its Application	Anal. Lett. 23, 2107(1990)
森 逸男, 藤田芳一, 豊田美奈子, 尾花明美, 中村昌樹, 岡 茂樹	Spectrophotometric Determination of Nickel (II) with <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephthalcin in the Mixed Micellar Media of Zephiramine and Tween 20	Anal. Lett. 23, 2303(1990)
千熊正彦, 西村三枝子	Selective sorption of fluoride ions by anion exchange resin modified with alizarin fluorine blue-praseodymium (III) complex	Reactive Polymers 13, 131 (1990)

著 者	題 目	掲 載 誌
千熊正彦	ヒト血漿および家兎肝上清中におけるフッ素含有薬物からのフッ素の遊離	Biomed. Res. on Trace Elements, 1, 245 (1990)
千熊正彦, 山口敬子	Kinetic and equilibrium studies on di- μ - hydroxo dimer formation of anticancer platinum (II) complexes by potentiometric method	J. Pharmacobio-Dyn. 13, 19 (1990)
木村捷二郎, 森本純子	牛乳中の ^{131}I の放射能濃度の測定に関する実験的検討	衛生化学. 36, 419 (1990)
沼田 敦, 竹村鶴子, 他	Antineoplastic Agents. 107. Isolation of Acteoside and Isoacteoside from <i>Castilleja Linariaefolia</i>	J. Nat. Prod. 53, 456 (1990)
沼田 敦, 高橋千佳, 宮本多美江, 米田倫子, 他	New Triterpenes from a Chinese Medicine, Goreishi	Chem. Pharm. Bull. 38, 942 (1990)
沼田 敦, 河合健蔵, 高橋千佳	Juvabione Analogs from <i>Abies sachalinensis</i> (Fr. Schum.) Mast. II	Chem. Pharm. Bull. 38, 2570 (1990)
沼田 敦, 高橋千佳, 藤木陵子, 北野栄作, 北島昭彦, 竹村鶴子	Plant Constituents Biologically Active to Insects. VI. Antifeedants for Larvae of the Yellow Butterfly, <i>Eurema hecabe mandarina</i> , in <i>Osmunda japonica</i> . (2)	Chem. Pharm. Bull. 38, 2862 (1990)
田中麗子, 栗本真理, 米田倫子, 松永春洋, 他	17 β , 21 β -Epoxyhopan-3 β -ol and β Alnincanol from <i>Euphorbia supina</i>	Phytochemistry 29, 2253 (1990)
田中麗子, 松永春洋	Vcitchiolide, a Tetracyclic Triterpene Lactone from <i>Abies veitchii</i>	Phytochemistry 29, 3267 (1990)
田中麗子, 井尻温代, 石田寿昌, 沼田 敦, 松永春洋, 他	A Tetracyclic Triterpene Lactone and other constituents from <i>Abies firma</i>	Phytochemistry 29, 3263 (1990)
田中麗子, 松永春洋, 他	Anit-tumor-promoting Activity of Derivatives of Abieslactone, a Natural Triterpenoid isolated from several <i>Abies</i> genus	Cancer Lett. 53, 141 (1990)
松永春洋, 田中麗子, 他	Structure Determination of Bromo and Nitro Derivatives of 1 Azabenzanthrone	J. Mol. Struct. 224, 313 (1990)
高岡義和, 他	Synthesis of Chiral Hypervalent Organoiodinanes, Iodo (III) binaphthyls, and Evidence for Pseudorotation on Iodine	J. Am. Chem. Soc. 112, 5677 (1990)
高岡義和, 他	Synthesis of Ethynyl (Phenyl) iodonium Tetrafluoroborate. A New Reagent for Ethynylation of 1, 3-Dicarbonyl Compounds	J. Chem. Soc. Chem. Commun. 118 (1990)
藤田榮一, 他	Biomimetic, Chemical, and Spectroscopic Evaluations for the Radiosensitizing Potential of N1 and N2-Substituted Derivatives of 3-Nitro-1, 2, 4-Triazole Toward Hypoxic Cells in the Radio-therapy: Remarkably Different Substitution Effect.	Tetrahedron. 46, 3211 (1990)
藤田榮一, 他	Highly Diastereoselective Alkylation of Chiral Tin (II) Enolates Onto Cyclic Acyl Imines. An Efficient Asymmetric Synthesis of Bicyclic Alkaloids Bearing a Nitrogen Atom Ring Junction	J. Org. Chem. 55, 1148 (1990)

著者	題目	掲載誌
米田龍司, 大寄浩孝, 春沢信哉, 栗原拓史	Dephosphorylation of Cyano Diethyl Phosphates by Reduction with Lithium - Liquid Ammonia: An Efficient Method for Conversion of Carbonyl Compounds into Nitriles	J. Chem. Soc. Perkin Trans. 1, 607 (1990)
栗原拓史, 松原義隆, 大寄浩孝, 春沢信哉, 米田龍司	2-Oxotetrahydro-1,3-oxazine: A Useful Intermediate for the preparation of Tetrahydropyridine, Indolizidine, and Quinolizidine Skeletons	Heterocycles 30, 885 (1990)
春沢信哉, 大寄浩孝, 藤井晴美, 米田龍司, 栗原拓史	Highly Stereoselective Synthesis of (Z) or(E) Double Bonds with Conformational Control in [3,3] Sigmatropic Ring Expansion of 8-Membered Thionocarbonates	Tetrahedron Lett. 31, 5471 (1990)
坂之上里美, 春沢信哉, 山崎直樹, 米田龍司, 栗原拓史	Thermal Elimination of Carbonyl Sulfide from <i>O</i> -Aryl Thionocarbonates of Pyrrolidine-, Piperidine-, and Tetrahydrothiophene-2-ethanol	Chem. Pharm. Bull. 38, 2981 (1990)
浦田秀仁, 藤川勝志, 田村公宏, 赤木昌夫	Stability of Platinated Oligonucleotide Duplexes Containing a Base Pair Mismatch at the Site Complementary to the Platination Site	J. Am. Chem. Soc. 112, 8611 (1990)
草野源次郎, 他	Acromelic Acid C. A New Toxic Constituent of Clitocybe Acromelga: An Efficient Isolation of Acromelic Acids.	Tetrahedron Lett. 31, 3901 (1990)
三野芳紀, 太田長世	Inorganic Chemical Approaches to Pharmacognosy. V. X-Ray Fluorescence Spectrometric Studies on the Inorganic Constituents of Crude Drugs. (3). On the Cinnamomi Cortex	Chem. Pharm. Bull. 38, 709 (1990)
三野芳紀, 鳥居秀隆, 太田長世	Inorganic Chemical Approaches to Pharmacognosy. VI. X-Ray Fluorescence Spectrometric Studies on the Inorganic Constituents of Crude Drugs. (4): Coptidis Rhizoma and Phellodendri Cortex	Chem. Pharm. Bull. 38, 1936 (1990)
三野芳紀, 宇佐美秀子, 太田長世, 他	Inorganic Chemical Approaches to Pharmacognosy. VII. X-Ray Fluorescence Spectrometric Studies on the Inorganic Constituents of Crude Drugs.(5). The Relationship between Inorganic Constituents of Plants and the Soils on which They Are Grown.	Chem. Pharm. Bull. 38, 2204 (1990)
三野芳紀, 太田長世	Inorganic Chemical Approaches to Pharmacognosy. VIII. Determination of Selenium in Crude Drugs by Energy-Dispersive X-Ray Fluorescence Spectrometry	Chem. Pharm. Bull. 38, 2208 (1990)
三野芳紀	生薬の無機化学的研究 (第9報) ケイ光X線法による生薬中の無機成分の検討 (その6) オタネニンジンとキキョウについて——薬用植物の金属含量に及ぼす生育段階と部位の影響	生薬学雑誌, 44, 276 (1990)
馬場きみ江, 谷口雅彦, 米田祐子, 小澤 貢, 他	Coumarin Glycosides from Edgeworthia Chrysantha	Phytochemistry 29, 217 (1990)

著 者	題 目	掲 載 誌
馬場きみ江, 木戸 正, 米田祐子, 谷口雅彦, 小澤 貢	アシタバの成分 (第5報) 果実の成分および果実, 根, 葉におけるクマリン類, カルコン類の比較	生薬学雑誌, 44, 235 (1990)
馬場きみ江, 小澤 貢, 他	Inhibition of gastric H ⁺ , K ⁺ -ATPase by chalcone derivatives, xantho-angelol and 4-hydroxyderricin, from <i>Angelica keiskei</i> Koidzumi	J. Pharm. Pharmacol. 42, 723 (1990)
馬場きみ江, 中田功二, 谷口雅彦, 木戸 正, 小澤 貢	Chalcones From <i>Angelica Keiskei</i>	Phytochemistry 29, 3907 (1990)
馬場きみ江, 小澤 貢, 他	Determination of Absolute Configuration of the Alkyl Group at the α Position in the Acyclic α - Alkyl-(E)- β , γ -Enoates by Circular Dichroism	Tetrahedron: Asymmetry 1, 389 (1990)
小延鑑一, 山本英倫子, 熊本知子	尿毒症患者血液透析物と肝硬変患者尿の蛍光クロマ トグラムプロフィール	日本腎臓学会誌, 32, 1017 (1990)
池田 潔, 他	Kinetics of the Hydrolysis of Mixed Micelles of Dipalmitoyllecitin with Triton X-100 Catalyzed by a Phospholipase A ₂ from the Venom of <i>Agkistrodon</i> <i>halys blomhoffii</i>	J. Biochem. 108, 21 (1990)
藤本陽子, 中谷恵美, 南野裕司, 高橋美紀, 佐久間 覚, 藤田 直	Effective use of rabbit gastric antral mucosal slices in prostaglandin synthesis and metabolism studies	Biochim. Biophys. Acta. 1044, 65 (1990)
藤田 直, 中谷恵美, 船石信行, 佐久間 覚, 藤本陽子	Potent inhibition of prostaglandin inactivation in rabbit gastric antral mucosal slices by selenium ions in-vitro	J. Pharm. Pharmacol. 42, 655 (1990)
佐久間 覚, 藤本陽子, 疋田英二, 岡野由紀, 山本郁男, 藤田 直	The effect of selenium ions on the catabolism of prostaglandin E ₂ in rabbit kidney cortex	Res. Commun. Chem. Pathol. Pharmacol. 70, 61 (1990)
佐久間 覚, 藤本陽子, 疋田英二, 岡野由紀, 山本郁男, 藤田 直	Effects of metal ions on 15-hydroxy prostaglandin dehydrogenase activity in rabbit kidney cortex	Prostaglandins 40, 507 (1990)
藤本陽子, 佐久間 覚, 藤田 直	Effective use of rabbit gastric antral mucosal slices in the studies of prostaglandin synthesis and meta- bolism	Eur. J. Pharmacol. 183, 1211 (1990)
藤田 直, 島田秀治, 藤本陽子	Triacylglycerol lipase-mediated release of arachi- donic acid for prostaglandin synthesis in rabbit kidney medulla microsomes	Eur. J. Pharmacol. 183, 2078 (1990)
佐久間 覚, 藤本陽子, 藤田 直	Factors influencing the metabolism of prostaglandin in rabbit kidney cortex	Jpn. J. Pharmacol. 52, 205 (1990)
島田秀治, 藤本陽子, 藤田 直	Triacylglycerol lipase-mediated release of arachi- donic acid for prostaglandin synthesis in rabbit kidney medulla microsomes	Jpn. J. Pharmacol. 52, 206 (1990)
森本一洋, 永易 篤, 深野木信一, 森坂勝昭, 他	Evaluation of Polyvinyl Alcohol Hydrogel as Sus- tained-Release Vehicle for Transdermal System of Bunitrolol HCl	Drug Dev. Ind. Pharm. 16, 13 (1990)

著 者	題 目	掲 載 誌
森本一洋, 深野木信一, 畠山容子, 永易 篤, 森坂勝昭, 他	Design of a Polyvinyl Alcohol Hydrogel Containing Phospholipid as Controlled - Release Vehicle for Rectal Administration of (±)-Propranolol HCl	J. Pharm. Pharmacol. 42, 720 (1990)
森本一洋, 治田達夫, 森坂勝昭	インドメタシンの皮膚透過に及ぼす脂肪酸類の影響	Ther. Res. 11, 95 (1990)
堤 あゆみ, 井川智恵, 酒井 清, 他	Sustained Release Suppository of Sodium Diclofenac : Use of Water Absorbable Polymer	Drug Dev. Ind. Pharm. 16, 1675 (1990)
森本史郎, 久木一弘, 中瀬浩治, 林 一孝, 池川るり子, 大山 但, 松村靖夫	Effects of Endothelin -1 on Renal Function and Renin Secretion in vivo and in vitro	Eur. J. Pharmacol. 183, 1814 (1990)
松村靖夫, 久木一弘, 高岡昌徳, 森本史郎	Phosphoramidon, a Metalloproteinase Inhibitor, Suppresses the Hypertensive Effect of Big Endothelin-1	Eur. J. Pharmacol. 185, 103 (1990)
森本史郎, 久木一弘, 松村靖夫	脳卒中易発性高血圧自然発症ラット (SHRSP) の腎血行動態ならびに腎機能に及ぼす塩酸マジピン, ニソルジピンおよびニトレンジピンの影響	薬理と治療 18, 2889 (1990)
高岡昌徳, 宮田恭至, 竹信敬史, 池川るり子, 松村靖夫, 森本史郎	Mode of Cleavage of Pig Big Endothelin-1 by Chymotrypsin : Production and Degradation of Mature Endothelin 1	Biochem. J. 270, 541 (1990)
池川るり子, 松村靖夫, 塚原八重子, 高岡昌徳, 森本史郎	Phosphoramidon, a Metalloproteinase Inhibitor, suppresses the Secretion of Endothelin - 1 from Cultured Endothelial Cells by Inhibiting a Big Endothelin-1 Converting Enzyme	Biochem. Biophys. Res. Commun. 171, 669 (1990)
松村靖夫, 池川るり子, 塚原八重子, 高岡昌徳, 森本史郎	Conversion of Big Endothelin-1 to Endothelin -1 by Two Types of Metalloproteinases Derived from Porcine Aortic Endothelial Cells	FEBS Lett. 272, 166 (1990)
高岡昌徳, 福森百合子, 白上和志, 池川るり子, 松村靖夫, 森本史郎	Proteolytic Processing of Porcine Big Endothelin - 1 Catalyzed by Cathepsin D	Biochem. Biophys. Res. Commun. 173, 1218 (1990)
高岡昌徳, 宮田恭至, 竹信敬史, 池川るり子, 松村靖夫, 森本史郎	Pepsin, an Aspartic Protease, Converts Porcine Big Endothelin to 21-Residue Endothelin	Biochem. Biophys. Res. Commun. 166, 436 (1990)
松村靖夫, 池川るり子, 高岡昌徳, 森本史郎	Conversion of Porcine Big Endothelin to Endothelin by an Extract from the Porcine Aortic Endothelial Cells	Biochem. Biophys. Res. Commun. 167, 203 (1990)
池川るり子, 松村靖夫, 高岡昌徳, 森本史郎	Evidence for Pepstatin - Sensitive Conversion of Porcine Big Endothelin - 1 by the Endothelial Cell Extract	Biochem. Biophys. Res. Commun. 167, 860 (1990)
景山正明, 松村靖夫, 林 一孝, 細川忠志, 森本史郎	Inhibitory Effects of Nisoldipine and Saralasin on Angiotensin II-Induced Antidiuresis in Anesthetized Dogs	Jpn. J. Pharmacol. 52, 245 (1990)

著 者	題 目	掲 載 誌
森本史郎, 松村靖夫, 大山 但, 慎山浩史, 市原敏夫, 高橋芳幸, 久木一弘	Diuretic Effects of L-Threo-3, 4-Dihydroxyphenylserine (L-Threo-DOPS) in Anesthetized Rats	Jpn. J. Pharmacol. 52, 431 (1990)
林 一孝, 松村靖夫, 吉田靖志, 大山 但, 久木一弘, 鈴木靖規, 森本史郎	Effects of BRL 34915 (Cromakalim) on Renal Hemodynamics and Function in Anesthetized Dogs	J. Pharmacol. Exp. Ther. 252, 1240 (1990)
竹信敬史, 高岡昌徳, 陶山英子, 矢野昌彦, 森本史郎	Conversion of Rat Urinary Prokallikrein to Its Active Form	Biochem. Int. 21, 417 (1990)
松村靖夫, 池川るり子, 高岡昌徳, 森本史郎	Conversion of Porcine Big Endothelin-1 to Endothelin-1 by an Extract from the Cultured Endothelial Cells	Eur. J. Pharmacol. 183, 1797 (1990)
高岡昌徳, 竹信敬史, 宮田恭至, 池川るり子, 松村靖夫, 森本史郎	Big Endothelin-1 Converts to Endothelin-1 with Pepsin Treatment	Eur. J. Pharmacol. 183, 1798 (1990)
亀山悦子, 岡崎直美, 玄番宗一, 他	Nephrotoxicity of a New Platinum Compound, 254-S. Evaluated with Rat Kidney Cortical Slices	Toxicol. Lett. 52, 15 (1990)
劉 立英, 玄番宗一	Stimulation of p-Aminohippurate Transport in Renal Cortical Slices Prepared from Rats Treated with Ginsenosides	J. Pharmacobio-Dyn. 13, 507 (1990)
保坂康弘, 他	Ultrastructural changes during lysis of L929 cells by class II restricted influenza virus-specific murine cytotoxic T lymphocyte clone	J. Virology 64, 1024 (1990)
保坂康弘, 他	The finest ultrastructural details of the inner layer of rotavirus revealed by minimal electron doses.	J. Electron Microsc. 39, 106 (1990)
黒田和道, 他	A host range mutant of Newcastle disease virus with an altered cleavage site for proteolytic activation of the F protein.	Virus Res. 15, 237 (1990)
黒田和道, 他	The oligosaccharides of influenza virus hemagglutinin expressed in insect cells by a vaculovirus vector	Virology 174, 418 (1990)
鶴岡浩志, 他	Molecular analysis of structural protein genes of the Yamagata-1 strain of defective subacute sclerosing panencephalitis virus. II. Nucleotide sequence of a cDNA corresponding to the P plus M dicistronic mRNA.	Virus Genes 4, 151 (1990)
稲森善彦, 大野由美子, 西畑秀一, 辻坊 裕, 馬場きみ江	Phytogrowth-Inhibitory and Antibacterial Activities of 2,5-Dihydroxy-1,4-dithiane and Its Derivatives	Chem. Pharm. Bull. 38, 243 (1990)
辻坊 裕, 佐藤浩史, 谷口 暢, 稲森善彦, 他	Novel Hypotensive Peptides from Body of <i>Elaphe climacophora</i>	Chem. Pharm. Bull. 38, 1004 (1990)

著 者	題 目	掲 載 誌
稲森善彦, 小川雅史, 網野比佐子, 坪井万里子, 山口智美, 辻坊 裕, 他	Hypotensive Effects on Spontaneously Hypertensive Rats and Antifungal Activity on Various Species of <i>Fusarium oxysporum</i> of Diethylstilbestrol Related Compounds	Chem. Pharm. Bull. 38, 2045 (1990)
稲森善彦, 網野比佐子, 坪井万里子, 山口智美, 辻坊 裕	Biological Activities of Racemomycin-B, β Lysine Rich Streptothricin Antibiotic, the Main Component of <i>Streptomyces lavendulae</i> OP-2	Chem. Pharm. Bull. 38, 2296 (1990)
辻坊 裕, 坂本隆志, 宮本勝城, 草野源次郎, 稲森善彦, 他	Isolation of cytotoxic Substance, Kalafungin from an Alkalophilic Actinomycete, <i>Nocardioopsis dassonvillei</i> subsp. <i>prasina</i>	Chem. Pharm. Bull. 38, 2299 (1990)
辻坊 裕, 坂本隆志, 西野暢幸, 稲森善彦, 他	Purification and Properties of Three Types of Xylanases Produced by an Alkalophilic Actinomycete	J. Appl. Bacteriol. 69, 398 (1990)
辻坊 裕, 宮本勝城, 稲森善彦, 他	Purification and Characterization of Two Types of Alkaline Serine Proteases Produced by an Alkalophilic Actinomycete	J. Appl. Bacteriol. 69, 520 (1990)
辻坊 裕, 稲森善彦, 他	<i>Bacillus stearothermophilus</i> Glyceraldehyde-3 Phosphate Dehydrogenase as a Source of Angiotensin-converting Enzyme Inhibitors	Agric. Biol. Chem., 54, 2115 (1990)
辻坊 裕, 宮本勝城, 稲森善彦, 他	Amino Acid Compositions and Partial Sequences of Two Types of Alkaline Serine Proteases from <i>Nocardioopsis dassonvillei</i> subsp. <i>prasina</i> OPC 210	Agric. Biol. Chem., 54, 2177 (1990)
辻坊 裕, 稲森善彦, 他	Production of Angiotensin-Converting Enzyme Inhibitors from Baker's Yeast Glyceraldehyde-3 phosphate Dehydrogenase	J. Pharmacobio-Dyn. 13, 766 (1990)
安田正秀	腎症候性出血熱 (HFRS) 病因ウイルス汚染ラット腫瘍 (Malignant Fibrous Histiocytoma) よりの HFRS ウイルスの消去	大阪大学医学雑誌 42, 13 (1990)
土井 勝	Inverse Muon Decay in the Gauge Theory	Prog. Theor. Phys. 84, 1036 (1990)
土井 勝	The neutrinoless Double Beta Decay in the Super-symmetric Model	ぼいでいあ 14, 133 (1990)
堀田輝明	高度科学技術文明社会の倫理 (I)	ぼいでいあ 14, 45 (1990)
碓井信二	第一回「カロッサ・シンポジウム」	ぼいでいあ 14, 171 (1990)
加藤義春	Probleme der nationalen Bewegung in Deutschland(I)	ぼいでいあ 14, 155 (1990)
熊本和正, 大石宏文, 望月伸三郎	大阪薬科大学新入学生の体力 — 体育指導の基礎研究 (VIII)	ぼいでいあ 14, 99 (1990)
(追補: 1989年)		
玄番宗一	毒性試験代替法の最近の進歩 4. 培養腎上皮細胞について	J. Toxicol. Sci. 14 (Supplement III), 115 (1989)

葎

大阪薬科大学

〒580 松原市河合2丁目10番65号

TEL 0723(32)1015 (代表)

FAX 0723(32)9929